

日本ラテンアメリカ学会

会 報

No. 9

1982年10月1日

第9号 目 次

1. 理事会報告
2. 学術・文化情報
3. 日墨交流計画について
4. 事務局から
 - ラテンアメリカ研究センターめぐり
 - 定例研究会のお知らせ

1. 第12回理事会報告

1982年7月10日出 10:00~16:00
於東京, 学士会分館, 出席理事8名。

○ 報告事項

- i) 日墨交流計画継続要望書を, 6月8日及び15日, 各方面に手交した。
- ii) 年報2号を大会欠席者に発送した。
- iii) 会報8号を編集, 印刷を完了した。

○ 審議事項

- i) 入会審査書類を検討のうえ, 正会員3名, 賛助会員1社(株式会社リプロ)の入会を承認した。この結果正会員数は228名となった。
- ii) FIEALC (Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe)が, 本年8月, ブラジルで大会を開催して発足する。これについて, 理事会より書簡を送り, 日本に当学会が存在する旨, またFIEALCに関心を有する旨通知し, 8月大会には参加できないが,

情報は送ってほしい旨伝えることを決定した。
iii) 年報第3号の編集 編集委員会に一任する。その構成は, 木田和男・山崎春成・青木芳夫の三理事, 編集担当理事国本伊代・細野昭雄, 正会員辻豊治氏とする。また, 執事要項を作成することを決定した。

iii) 研究会のあり方 東日本には, 大学を単位ないし基盤とする研究会が数多くあるから現状通り年2回の定例研究会でよい。

西日本, とりわけ京阪神地区においてはこのような研究会が存在しないので, 学会の研究会をより頻繁に開催することが望ましい。

ここで, 定例研究会の回数を増やすか, 或いは別に「小研究会」を設けるか, また通知をどうするか等を審議し, 結論として, 西日本においては定例研究会を年4回開催し, 通知は会報に掲載すること, それに伴って, 従前の西日本研究会担当理事松下洋氏(南山大学)に加えて, 青木芳夫氏(奈良大学)を, 西日本京阪神地区研究会担当理事に任命することを決定した。

v) 1983年度(第四回)大会について 会場は成城大学。増田理事長が中川和彦氏と協議して日取りを決め, 大会担当理事国本伊代・高山智博両氏を加えて大会準備委員会を編成, これに一任することを決定した。

vi) 中国社会科学院との交換 中国社会科学院の高銜氏より, 年報・会報に加えて, 日本の研究者の他の研究成果・刊行物をも中国のそれと交換したいとの要望があったが, これについては, 今後具体的方法を検討することにした。

vii) 長期展望

○ 今後, 他の第三世界地域研究学会と連絡をとりつつ, 共通の問題点について協議し, 必要があれば学術会議・文部省等に要望書を提出することを考慮する。

— 天 理 大 学 —

天理大学は、大正十四年、海外での天理教の伝道者を養成することを目的に設立された。したがって、当初より、海外の諸地域の各方面における研究は、かなり行なわれていたが、ことラテンアメリカ地域に関しては、地理的、あるいは教団の政策上の理由から、その地域が伝道の重点地域とならなかったがため、研究には、ほとんどみるべきものがなく、ただ、若干の各種の資料蒐集がなされたにとどまっている。

イスパニア学科との関係でいうならば、戦前、フィリピン方面の布教が重要視されていたため、学科も早くから開設され、この地域の学問的研究も活発に行なわれていた。

ラテンアメリカ地域の研究あるいは教育が、積極的に行なわれるようになったのは、最近のことである。従来、中南米(特に、ブラジル)の事情紹介的なものは、一、二開講されていたが、特に、大学紛争の後、カリキュラムの大幅な改革があり、言語中心の教育から、更に広範囲にわたる文化を教授するものへと、教育方針が変更された結果、後期、三、四年次生に、文学、文化、言語のコース制が導入され、文化コースの中に、地域研究に関係する多くの講座が開設された。

現在開講中の講座は、各国研究(一年次生および共通専門)、ラテンアメリカ史(二年次生)、ラテンアメリカ政治史、ラテンアメリカ研究(I)(植民地社会政治史)、ラテンアメリカ経済、ラテンアメリカ研究(II)(メキシコ近代史)、ラテンアメリカ地域研究(アンデス社会の政治経済史)、ラテンアメリカ特殊研究(ラテンアメリカ経済論)、ラテンア

メリカ文学特殊研究、ブラジル事情。(以上3、4年次生)などであるが、来年度より、新たに、南米研究(地理)が開講されることになっている。

研究分野では、個人研究が中心である。スタッフの員数の関係から、プロジェクト研究は不可能で、せいぜい、学内研究会を不定期に開催する程度である。

地域研究に関する文献図書については、前記のフィリピン地域の研究との関係から、キリスト教伝道、東西交渉などの文献が多くあるが、特に、十六世紀末、メキシコやマニラで出版された、新大陸やフィリピンのキリスト教伝道に関する貴重本も数多くある。植民地期のキリスト教伝道に関する研究に関心のある研究者諸氏には、おおいに、御利用いただきたい。

その他、直接、ラテンアメリカ地域の研究に関する文献図書については、主として、西語によるものが、アンデス地域を中心に、約3,000冊蒐集されており、その他の地域についても、政治関係を中心に若干ある。また、8種類のメキシコ、ブラジル、ペルーなどの月刊学術雑誌が、定期購入されている。

研究、教育は、主として、以下のスタッフで行なうが、学外の多くの研究者にも、御協力をいただいている。

研 究 員

中村 孝志 (歴史学)
上谷 博 (政治史)
岡村 順子 (ブラジル文学)
石川 基雄 (ブラジル事情)

(天理大学 上谷 博記)

○第三回総会で要望のあったラテンアメリカ研究者名鑑は、文部省科学研究費等を利用してできるだけ早い機会に完成させ、かつ、日本におけるラテンアメリカ関係資料のユニオン・カタログ作成の可能性について学会として今後検討したい。

以上の他、多くの意見が出された。

2. 学術・文化情報

国際交流基金による訪日者のリストその滞在予定は以下の通り。

i) 文化人短期招聘者

- Luis Federico Leloir (アルゼンチン) カンボマル生物化学研究所長 生物化学 目的, 生化学関係者との意見交換および講演 15日間滞在
- César Vega Valverde (コスタリカ) 国立コスタリカ大学芸術学部長 美術 目的, 伝統・現代美術の視察, 画家・芸術家等との意見交換 7月4日~7月20日
- Torres Quintero Rafael (コロンビア) コロンビア言語学会副会長, カーロイ・クエルボ研究所副所長, 比較言語学 目的, 日本・イスパニア語学会における講演 日本ラテンアメリカ学会関係者との意見交換 15日間滞在
- Alvaro Raúl Gómez (チリ) チリ大学交響楽団コンサートマスター 音楽 目的 オケストラ活動の視察, 関係者との意見交換 15日間滞在
- Rafael Francisco de Moya Pons (ドミニカ) マドレ・マエストラ・カトリック大学教授 哲学・ラテンアメリカ史 目的, 農業・漁業施設の視察, 歴史学・経済学者との意見交換 15日間滞在
- Branislava Susnik (パラグアイ) アスンシオン大学教授 アンドレス・バルベロ民族学博物館々長 人類学・民族学 目的, 社会・文化事情の視察, 人類学・民族学関係者との意見交換 15日間滞在
- Enrique Cardoso (ブラジル) ブラジル経済社会分析計画センター所長 社会学 目的, 国際労使関係協会第6回世界会議における講演, 労使問題関係者との意見交換

14日間滞在

- Néstor José Gollo (ブラジル) カシアス・ド・スール大学教授 社会教育 目的, 報道関係機関・文化施設・大学等研究教育機関・産業施設視察 9月14日~9月28日
- José Honório Rodrigues (ブラジル) リオ・デ・ジャネイロ国連邦大学教授, ジャーナリスト 歴史, 目的, 日本・ブラジル中央協会50周年記念講演, 伝統文化・歴史に関する視察 15日間滞在
- Justo Arroyo (パナマ) 文化庁文化振興局長 スペイン文学 目的, 文化行政の実情視察, 伝統文化視察, 文学関係者との意見交換 15日間滞在
- José Tola Pasquel (ペルー) カトリック大学学長 数学 目的, 社会・文化事情の視察 15日間滞在
- Feliciano Béjar (メキシコ) 彫刻家・画家 目的, 現代彫刻の実情視察, 芸術家との意見交換 15日間滞在

ii) 国際交流基金フェローシップ

- Stella Maris Figueiredo Bertinazzo (ブラジル) ブラジリア連邦大学講師 美術 目的, 日本の版画研究 1982, 6-1982・9
- José Leon Herrea (ペルー) カトリック大学教授 インド学 目的, 日本における仏教の研究 1982, 4-1983, 3

iii) 特定地域研究専門家招聘計画

- Milton Almedia das Santos (ブラジル) リオ・デ・ジャネイロ連邦大学客員正教授 地理学 目的, 都市化過程の比較研究 1982, 11-1983, 4

iiii) 日本研究講座講師・助手養成招聘

- Isabel Espino (ペルー) トルヒーヨ大学講師 目的, 日本語教授法の研究 1983, 3-1984, 3

3. 日墨交流計画について

本年度総会で採択された「日墨研修生・学生等交流計画に関する要望書」を、6月8日付で外務省に書簡を添えて送付いたしましたところ、6月28日付で外務省中南米局長より好意的な回答がありました。

内容は、当学会が同計画を高く評価し、同計画が今後も未長く継続されることに関心を寄せていることを心強く思う旨、また本年度同計画実施は、例年どおり百名の規模でなされる旨が述べられた後、同計画の重要性にかんがみ、来年度以降も引き続きこれを継続すべく努力したいと考えており、今後とも当学会の協力が得られれば有難いとして結ばれております。

以上 御報告申し上げます。

4. 事務局から

i) 会員名簿記載事項の訂正・変更

今回は、新名簿作成直後のことで、大変数が多いため、別紙正誤表を作成してお送りいたします。

会員名簿記載事項(所属機関・連絡先住所・電話番号)に変更がございましたらお知らせください。海外に長期滞在なさる場合にも、滞在地連絡先・滞在期間と合わせて、その旨御通知下さい。滞在期間が予め明らかでない場合は、御帰国の際その旨御通知くださいますようお願いいたします。

ii) 1982年度名簿には、第8回理事会(1982年2月27日)承認分までの新入会員を編入してあります。第9回以降の分は別紙御通知いたしますので、お綴じこみください。

iii) 1981年および1982年度会費(正会員5千円、準会員15ドル)を未納の方は、下記のいずれかにお払い込み下さい。

○郵便局振替口座 東京1-13630

(日本ラテンアメリカ学会名義)

○第一勧業銀行渋谷支店普通預金口座

1262358 (日本ラテンアメリカ学会代表増田義郎名義)

iii) 会報を一層充実させるために、各地で開催されている研究会、会員諸氏の研究活動報

告など、お送り下さい。

v) 著書および論文抜刷等をご寄贈下さい。

会員の業績を系統的網羅的に学会事務局で収集整理して保管し、閲覧のため公開したり、文献目録作成の資料にしたいと考えております。既に相当数を受領しておりますが、一層のご協力をお願いします。

vi) 原稿をお寄せいただきます時には、印刷の都合上、かならず20字詰横書きにしてくださいようお願いいたします。

定例研究会のお知らせ

東日本部会

○第五回定例研究会

日時 1982年11月13日(土)
14:00~17:00

場所 上智大学七号館14階特別会議室
(国電・地下鉄線四ツ谷駅下車)

報告 1. コスタリカの経済開発の現状と
国際協力における問題点

東祥三(国連工業開発機構)

2. 中米の近代化過程について—

エル・サルバドルを中心として
後藤政子(東海大学)

☆東日本部会に関するお問い合わせは上智大学・高山智博まで。(03-238-3941)

西日本部会の研究会のお知らせ

11月 南山大学

12月ないし1月 京都外国語大学(予定)

3月ないし4月 未定

報告を希望される方は早目に下記へご連絡下さい。

連絡先

青木芳夫 奈良市宝来町1230 (☎631)
奈良大学文学部 TEL 0742-44-1251

No9 1982年10月1日発行

日本ラテンアメリカ学会事務局

☎153 東京都目黒区駒場

3-8-1

東京大学教養学部8号館

中南米分科気付

☎03(467)1171

内線579